

国立病院機構岩国医療センター 循環器内科

循環器内科UPDATE VOL.1-1

〒740-8510 岩国市愛宕町1-1-1 TEL 0827-34-1000 (代) FAX 0827-35-5600

循環器内科update

Vol.1-1 (2021冬)

岩国医療センター循環器内科に関する様々なニュースをお届けします。(年4回刊行予定)

循環器内科の新体制

循環器内科メンバー

片山祐介	主任医長
田中屋真智子	医長 (画像診断)
川本健治	医長 (血管内治療)
和田匡史	医長 (不整脈治療)
大塚寛昭	PCI、EVT、PM
小出祐嗣	PCI、PM
赤井弘明	PCI、EVT
小寺順久	循環器専門研修医
河口達登	内科専攻医
齊藤宇亮	内科専攻医
松尾啓太	内科専攻医

血管造影室の紹介

9月末に最新鋭機種を導入となった血管造影室をご紹介します。

カテ室 (1)	冠動脈治療
カテ室 (2)	不整脈治療
カテ室 (3)	末梢血管治療*

*他科と共用



循環器内科の新体制

2021年4月から岩国医療センター循環器内科が**新体制**となりました。医長4名の専門性を活かしつつ、これからも循環器内科全体のレベルアップを目指します。**片山祐介**は、循環器内科全体および冠動脈治療を統括しています。**田中屋真智子**は生理検査(心エコー、睡眠呼吸検査)、心不全多職種カンファレンスを、**川本健治**は末梢血管治療(閉塞性動脈硬化症、腎動脈狭窄、透析シャント不全)、心臓リハビリテーションを、**和田匡史**はカテーテルアブレーション(心房細動、心室頻拍、上室頻拍)、ペースメーカー植え込みなどの不整脈部門を、それぞれ指導しています。中堅(大塚、小出、赤井)、若手(小寺、河口、齊藤、松尾)は、循環器領域はもちろん、一般内科入院(脳梗塞、糖尿病、緊急透析、感染症)も担当しています。外来・救急紹介に曜日制限はありませんので、**心不全、心筋梗塞、狭心症、不整脈、弁膜症、間欠性跛行**など、いつでもご紹介ください。(循環器内科主任医長:片山祐介)



最新鋭心カテ装置

Philips Azurion 7 BI2/I2

2021年9月末に導入された最新鋭心カテ装置。下記のような特徴を備えており、安全性、術者支援などで劇的な性能向上を得ています。

1) バイプレーン撮影

1回の造影で、2方向から同時撮影することで、造影剤使用量が半分となります。腎機能低下症例、複雑病変治療などの際に有用です。

2) 高画質・被曝低減

最新テクノロジーによって、肥満症例、長時間治療でも、高画質と被曝低減の両立が可能となりました。

3) 58インチ大画面LCD

大画面を分割表示することで、検査、治療などあらゆる状況に適したレイアウトを、術者がリアルタイムに選択することができます。

4) 多機能アプリケーション

呼吸、心拍に合わせて表示する冠動脈ロードマップ、プレッシャーワイヤによる虚血評価の可視化など、従来になかった機能が装備されています。

血管造影室の紹介

9月末、当院の血管造影室に**最新鋭新カテ装置Philips Azurion 7 BI2/I2**が導入となり、トラブルなく順調に稼働しています。少し時代を遡ると、**旧病院（黒磯）**ではシングルプレーン1台で、CAG、PCI、ペースメーカー植え込みを行っていましたが、急性心筋梗塞などの緊急治療があると、大幅に予定がずれこむこともありました。**新病院（愛宕）**移転で、2台体制（バイプレーン増設、シングルプレーン移設）となり、同時期の心房細動アブレーション件数の増加にも対応できました。血管造影室は、汎用DSAを含めた3台が並列する構造となっており、脳神経外科による脳血管治療も含めて、フレキシブルな対応が可能です。今回の最新バイプレーン機への更新で、**患者負担低減**（被曝低減、造影剤減量）、**診療支援機能の充実**（画質向上、多機能）のほか、検査、治療が円滑に進むことで**働き方改革への貢献**も期待しています。もちろん、ハードばかりでなく、ソフト面の充実も必要です。当院血管造影室が「トップレベルの医療」を提供できるよう、カテ室スタッフ（医師、カテ室看護師、放射線技師、生理検査技師、臨床工学士）が一丸となり、さらにレベルアップしていきたいと考えております。（循環器内科主任医長：片山祐介）



2021/9/27 Azurion7稼働記念、血管造影室スタッフ一同